

項目	観点	教科書名						
		あたらしいせいかつ(2・東書)	たのしいせいかつ上たのしいせいかつ下はっけん(4・大日本)	みんなとまなぶ小学校せいかつ上みんなと学ぶしょうがっこうせいかつ下(11・学図)	せいかつ上みんなとなかよしせいかつ下[17・教出]	せいかつ上みんなだいすきせいかつ下みんなともだち(38・光村)	わくわくせいかつ上いきいきせいかつ下(61・啓林館)	わたしとせいかつ上わたしとせいかつ下(116・日文)
1学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養うためにどのように配慮されているか。	・他教科及び地域との関連を図りながら単元が配列されている。 ・児童が自分のよさに気付けるように、挿絵やせりふ等が表現されている。 ・挿絵の児童が上下巻を通して自立していく姿を、自分の姿と重ね合わせることができる。	・入門期から、児童の身近な場所季節に合わせて活動できるようにになっている。 ・下巻の「自分のはっけん」は自分に対する自他の評価を進める中で、自己有用感を高めることが期待できる。	・活動が大單元ごとにまとめてあるが、必要なページを目次を見て探さなければならず、1年生には使いにくい。	・学校探検や町探検で児童の活動の自主性を支援する記述が少なく、目立たない。	・説明が少ないため、指導者の指導のねらいがはっきりしていないと、学習内容が変わる可能性がある。 ・活動が大單元ごとにまとめてあるので、必要なページを目次を見て探さなければならず、1年生には使いにくい。	・季節ごとに、活動を区切っている。 ・「せいかつたんけんブック」が別冊になっており、外での活動の時に持ち運びが便利であるが、教科書と内容が重なっている。	・1年間の学習により「できるようになった」ことを振り返り、自己の成長を実感させている。
	○自分と身近な人々、社会及び自然(対象)とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるためにどのように配慮されているか。	・活動のねらいを質問の形で各ページに提示し、分かりやすい。 ・活動の場が、身近な地域から広がりをもたせており、バリアフリーに対応している。	・「がくしゅうどうぐばこ」は発展としても、一人での調べ学習の手引きとしても活用できる。 ・端的な言葉と絵や写真で児童が思考を広げられるようにしている。	・1つの事象にこだわりをもって追究することができるように構成している。	・「たねのきもちになろう」「いきものきもちになろう」等心情を表現させる物語的な内容がある。	・ホップステップ→ジャンプという単元の流れになっていて、児童の気付きの質を高めている。 ・「どうすれば～かな。」という言葉投げかけ、児童が考える場を設定している。	・わくわく→いきいき→つたえあうという単元の流れになっていて、児童の気付きの質を高めている。	・栽培での植物「なりきりかあど」や来年の1年生や祖父母への手紙など、児童の豊かな心を育てる工夫がなされている。
	○生活上必要な習慣や技能を身に付けるために、どのように配慮されているか。	・必要な技能が巻末の「べんりてちょう」や「ポケットずかん」にまとめてあり、分かりやすい。 ・手を洗う等の生活上必要な習慣が繰り返し明示されている。	・まち探検で、話を聞かときの態度や礼儀を分かりやすく示している。 ・必要なことが巻末や単元内に吹き出しや「どうぐばこ」等を使って書かれている。	・手紙の書き方が丁寧に解説されている。	・右ページの端に注意事項がまとめてある。	・緑色のわくや！のマークの場所でイラストと短い言葉で説明しているが、他社と比べて、記載する量が少ない。	・巻末「わくわくずかん」「いきいずかん」で約束や道具の使い方が記述されている。	・校外での活動のマナーが詳しく書かれている。
2内容の程度及び取り扱いについて	＜基礎・基本の定着のための工夫＞ ○学習上の自立、生活上の自立、精神的な自立への基礎を養うために、どのような工夫が見られるか。	・小1プロブレムに対応したスタート単元がある。 ・自立への基礎となる項目が、右側のページに「やくそく」、「名人になろう」等で設けてある。	・そのページで必要とされることが右上の木の葉のマークに明示されているが、小さい。	・「生活科学び方図かん」により、児童が主体的に学習を進められるようになっている。	・単元ごとに具体的な活動内容が記述されており、分かりやすい。 ・「ふりかえる」により単元ごとに3段階で活動の振り返りを図ることができる。	・基本的な道具の使い方がない。やくそくなど注意するところが少ない。	・別冊には基礎基本に関する内容は多い。教科書には少ないため、2冊を使って学習する必要がある。	・小1プロブレムに対応したスタート単元がある。
	＜関心・意欲を高め・主体的な学習活動を促すための工夫＞ ○児童の関心・意欲を高め、主体的な学習活動を促すために、具体的な活動や素材の提示の仕方にどのような工夫が見られるか。	○左側のページのやってみようのマークにより、児童が意欲を高め、主体的に取り組めるようになっている。 ○発表会の準備や活動の場面の写真が多く関心意欲を高めることができる。	・活動意欲を高める斬新なアングルの写真が多い。 ・見る、聞く、触れるなどの諸感覚を使えるよう呼びかけの言葉などを工夫している。	・ワークシートの例が少なく、大人の感覚の書き方になっている。	・ワークシートが活字のものと、児童の字のものが混じっている。	・発表の場面の写真だけで、準備や発展的内容の写真がない。おもちゃを作り始めるまでが長く、児童の意欲が低下することが懸念される。	・秋のおもちゃの作り方は2つしかない。簡単なイラストだけで児童の意欲が高まらない。	・観察カードに統一性がない。 ・写真を使って遊びの活動を説明しているが、わかりにくい。 ・諸感覚を使って自然を感じる活動の写真がわかりにくい。
	＜個に応じた指導のための工夫＞ ○児童の思いや願いを大切にし、多様な学習活動が展開できるようにするために、どのような工夫が見られるか。	・生き物を捕まえている児童の様子の写真が吹き出しと共にあり、児童の思いや願いに沿うように構成されている。 ・全体を通して、様々な事情を抱える児童の生育歴に配慮する部分が多く、児童が安心して活動に取り組めるようになっている。	・草花あそびが豊富で活動意欲を高めている。 ・通学路カード、発見カードなど児童が児童の視点でえがけるように工夫してあり活用しやすい配慮がされている。	・作ってあそぼうの単元では車作りが主になっており、他はものしりノートに発展的な取り上げ方をしている。多様性を持たせにくい。	・「はっけんヒント」により、多様性や気付きの質を高める工夫をしている。	・自分史のまとめ方をいろいろな方法で紹介し、写真も大きくわかりやすい。 ・おもちゃの作品例の数は多いが、写真が小さい。作り方は、記載されていない。	・おもちゃの作品や発表の仕方、具体例の数が少ないので、児童の活動が広がらない可能性がある。	・おもちゃづくりで「せつけい図」や「くふうしたよカード」など、児童の発想を生かせる工夫がある。

3構成・配列・分量	○各単元の配列や単元相互の関連及び分量にはどのような特色があるか。	・栽培の単元は、花や野菜の種まきからその植物が枯れるまでをひとまとまりにしてある。 ・四季の変化を意識して学習ができるよう配列されている。	・学習の順序や季節の順に単元が配列しており、順序よく学習しやすい。 ・2年間の継続した活動があり、1年生での学びが2年生に生かされている。	・大単元ごとにまとめてあり、順序がわかりにくい。	・目次を見ると順序が分かるようになってはいるが、目次のページの情報が多すぎて分かりにくい。	・1年生では、四季の変化をまとめて記載している。必要なページを目次を見て探さなければならず、1年生には使いにくい。	・2年間の連続した活動はなく、単元相互の関係が見られない。	・児童の発達に合わせ、身の周りの対象に繰り返し関わる単元配列になっている。
	○多様な活動や体験ができるようにするため、内容や配列・分量にどのような特色があるか。	・教材例や活動例が豊富にある。 ・学習指導要領に付け加えられた「公共物や公共施設の利用」を考慮した単元が導入されている。	・児童の経験や関心に応じ、多様な活動ができるよう活動例を多数挙げ、選択できるようにしている。 ・科学的な事象や言葉に関する資料が多くレベルが高いが、難しい。	・チャレンジ図かんでは、グローバルな視点での活動を入れている。	・巻末の「ぐんぐんノート」に「本を読もう」を入れ多様性や発展性を促している。	・地域や学校の実態に応じて、単元を設定できるようにになっている。	・1年生の生き物の単元では、動物をとりあげており、生き物を飼っていない学校の実態に合わない。	・飼育栽培での困ったことの問題を提起し、次の活動に意欲をつなげている。
4表記・表現	○単元名、本文、吹き出しなどの文字やマークによる表記・表現は、どのような工夫が見られるか。	・ページの中で、小単元名や本文のマーク、「やくそく」などが同じ位置にあり、分かりやすい。 ・ワークシートには、児童の書いた文字を使用し、児童に身近なものになっている。	・単元名・本文は児童の思いや願い・つぶやきを生かし、表現を工夫している。 ・大単元名上巻「なかよし」下巻「はっけん」で貫かれており、単元の関連を図りながら学習できる。	・目次のページにある「がっこう大すき」「みんな大すき」というテーマがいかされていない。	・ヒントや吹き出しの説明の言葉が多く、児童の思考を狭めている。	・吹き出しが大きく見やすい。 ・吹き出しの数が多いため、児童の思いが限定されてしまう可能性がある。 ・1年生の最終と思われる単元でも「にねんせい」とひらがなの表記にしている。	・大単元は縦書き、小単元は色抜きの文字で示され見やすくしてある。	・活動時の注意事項、活動のはたらきかけ、方法が区別されず、同一マークで示されている。
	○写真や挿絵、紙面の構成に、どのような工夫が見られるか。	・生き物の成長や活動の拡大写真が児童の具体的な体験や意欲を引き出すように表現されている。 ・写真や挿絵は鮮明で活動の楽しさを伝え、児童の意欲を引き出すものとなっている。	・活動意欲を高める斬新なアングルの写真、劇的な瞬間の写真が多い。 ・単元の始めに児童が活動する大きな写真があり、やってみたいという意欲を高めることができる。	・写真やイラストに躍動感がある。	・実際には観察が難しい雪の結晶や秋の葉、木の実を実物大で分かりやすく掲載している。 ・小1のスタートの写真は、期待や喜びがやや伝わりにくい。	・挿絵は、淡い色調のものもあれば、暗い色調のものもあり、統一性がない。	・挿絵は淡い色調で児童に親しみやすい絵である。 ・紙面の構成に統一性がなく、大事な情報が探しにくい。	・学校探検の扉絵がジオラマで、人との出会い、発見の期待をあまり喚起しない。 ・巻末の「なんでもずかん」が引きにくい。 ・町探検の地図の俯瞰が大きすぎて、児童の視点との差があり、興味を引きにくい。
5体裁・使用上の便宜	○印刷、装丁・体裁等について、どのように配慮されているか。	・児童が集中して学習できるよう、紙面の色調が落ち着いた色で統一されている。	・カバーシートを使うことで、夜の草原や町の様子を分かりやすくしている。	・いろいろな説明が裏表紙の中に書いてある。	・下の表紙の色使いがやや暗い。	・表紙の絵は、動物が人間の姿をしており現実的ではない。 ○いろいろな説明が裏表紙の中に書いてある。	・表紙に実際の子供の写真を用いている。	・いろいろな説明が裏表紙の中に書いてある。 ・子供が好きなアニメ風の表紙を用いている。